男女平等推進フォーラム稲城2025　記録集

生きづらいのは　あなたのせい？

～ジェンダーが生む望まない孤立・孤独～

稲城市
男女平等推進フォーラム稲城2025実行委員会

目　次

実行委員長あいさつ …… 2
稲城市長あいさつ …… 3
第１部　基調講演　講師：石田　光規　氏 …… 4
第２部　ワークショップ　講師講評 …… 12
男女平等推進フォーラム稲城2025アンケート集計結果 …… 15
パネル展 …… 16
ポスター …… 17
『稲城市婦人のつどい』から『男女平等推進フォーラム稲城』へ …… 18
実行委員になって一言 …… 22
男女平等推進フォーラム稲城2025実行委員会活動経過報告 …… 23
男女平等推進フォーラム稲城2025実行委員名簿 …… 24

男女平等推進フォーラム稲城2025プログラム

2025年12月６日（土）　稲城市地域振興プラザにて開催

13：00　開場（地域振興プラザ４F会議室）

13：30　開会　開会あいさつ
（実行委員長・稲城市長）

13：45　第１部　基調講演「ジェンダーから見る孤立・孤独
：つながりのある社会に向けて」
講師：石田（いしだ）　光規（みつのり） 氏（早稲田大学文学学術院教授）

15：35　第２部　ワークショップ

16：45　閉会

男女平等推進フォーラム稲城2025

実行委員長あいさつ

坪内　美幸



皆さま、こんにちは。実行委員長の坪内美幸です。本日はお忙しい中、「男女平等推進フォーラム2025」にご参加いただき、心より感謝申し上げます。

このフォーラムは、1975年の国際婦人年を契機に、「子どもたちに残したい、よりよい社会」を願って始まりました。『稲城市婦人のつどい』としてスタートし、『いなぎの女性のつどい』『いなぎ女性フォーラム』『女と男のフォーラム』、昨年からは「男女平等推進フォーラム」と名称を改め、歩みを続けています。

今年で第48回を迎える本フォーラム。今回のテーマは、「生きづらいのはあなたのせい？ジェンダーが生む望まない孤立・孤独」です。孤立や孤独は、性格や個人の選択によるものと捉えられがちです。しかし、私たちの生きづらさは本当に“自分のせい”でしょうか。家庭、学校、職場、地域、友人との集まり――「こうあるべき」「こう振る舞うべき」という無言の期待に、息苦しさを感じたことはありませんか？「男は外で働く」「お母さんなんだから我慢しなきゃ」といったジェンダーの枠組みも、自分らしく振舞えず、孤独を感じさせることもあるのではないでしょうか。

本日は、早稲田大学教授 石田光規（いしだみつのり）先生を講師にお迎えし、「社会が生む望まない孤立、孤独」について学びます。石田先生は、早稲田大学 文学学術院の教授で、孤立・孤独、地域のつながり、友人関係など現代社会の人間関係を幅広く研究され、多摩市をはじめ各自治体と連携し、地域のつながりづくりや孤立防止に向けた実践的な活動にも取り組まれています。著書に『孤立不安社会』『「友だち」から自由になる』『「人それぞれ」がさみしい』など多数あります。

このフォーラムが、皆さまにとって「孤立」や「孤独」を“自分ごと”として捉えるきっかけとなり、また、地域の中で、支え合い、仲間づくりを目的とした多様なサークル活動をされている皆さまには、活力や、新たな気づきを持って帰って頂けたら幸いです。行政においても、これらの課題を“社会の問題”として受け止め、未然に防ぐ取り組みがさらに広がることを願っております。

誰もが安心してつながれる社会を、共に築いていく行動へとつながる時間になりますよう最後までどうぞよろしくお願いいたします。

稲城市長 あいさつ

髙橋　勝浩



皆さま、こんにちは。ご紹介いただきました稲城市長　髙橋勝浩でございます。「男女平等推進フォーラム稲城2025」の開催、誠におめでとうございます。

今、実行委員長さんから、これまでの経緯のお話をいただきまして、1975年の第１回目から今回で48回、年数からしますと満50周年ということで大変歴史と伝統のあるフォーラムが連綿と続いているということ、しかも第１回目から、ずっと実行委員会形式という、市の行政主導ではなく市民主導で続けられているということが、改めて稲城市の市民力の凄さに感服をするとともに、歴史が長いことはうれしいことだと感じています。しかし一方では50年たってもなかなかジェンダーギャップが解消できないというのも課題の一つかなと思います。

今日はジェンダーについてのお話ということで、石田光規先生にお忙しいところご登壇いただきまして、ありがとうございます。

ジェンダーの解消、社会的性差をなくしていこうということは、当然取り組んでいることではございますが、稲城市役所という事業所として振り返ってみれば、果たしてしっかりとできているのかな、と反省点も多くございます。例えば３人の理事者（市長、副市長、教育長）と17人の部長がおります。教育長と部長職に女性が４人おりまして、女性の割合は25パーセントです。これが良いのか悪いのかというと、全く十分ではないと思っています。私は部長、課長に登用するにあたり、特に「男だから」、「女だから」と枠を決めているわけではありません。その人の能力や経歴などを評価しております。また、例えば、試験制度では、圧倒的に女性が受けてくれません。「もっと受けてほしい。」とお願いはしていますが、なかなかそういった環境になく、さらに女性の職員数は圧倒的に少なく、係長、課長、部長と望む人も少ない。最近では、採用試験の申し込みで、ほとんど女性がいないということがありました。役所の事務仕事は、男女差の無い仕事ですから、受験する段階では５対５であるとありがたく思います。しかし、もともと試験を受ける女性の人数が少ない。やはり職場ごとに、女性が多いところと男性が多いところがあるのも、ひとつのジェンダーであるのかもしれません。引き続き、女性の登用をしっかり行っていきたいと思っております。

ジェンダーでもうひとつ思うことは、会社や学校の問題もありますが、地域活動の場で挨拶をさせてもらいますけれども、活動している方のほとんどは女性で男性はいません。もちろん高齢者になると、男性は体が弱く平均寿命が短いので、相対的に女性が多くなります。肉体的にはそうですが、男性は引きこもって社会参加ができない方が多く、やはり会社での「俺は部長だった」、「社長だった」を退職後も引きずる傾向があり地域デビューがなかなか難しくなっています。退職後に自治会などに、なるべく積極的に参加してほしいと思います。こちら（地域振興プラザ）の１階にありますサポートセンター等で、退職後の地域デビューをサポートしています。男性は自治会等に入ると、上下関係で「俺は偉いんだ」と、これまで培ってきたノウハウを地域の人に伝授してあげようという方が多く、どうしても既存で頑張っている自治会役員の方と喧嘩してやめてしまう方がいます。女性はどこに行ってもフラットでお仲間になれ、年齢も上下関係なくお付き合いできます。したがって、どこへいっても女性が多く、男性は引きこもってしまい、身体を壊して早期に亡くなってしまったり要介護状態になってしまったりします。外に出て活動することが、身体のバランスをとりますし、退職後の高齢者の地域活動は圧倒的にジェンダー（男らしさ、女らしさ）だと思いますので、ぜひ、何かの会合がありましたら、男性陣を引き連れて、引き出していっていただきたい。男性が家で引きこもりにならないように、皆さんもお手伝いいただきたいと思っております。

引き続き男女に差別なく、様々な活動を取り込めるよう行政としてもしっかりバックアップしていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

今日のフォーラムが実りあることを願って私からのご挨拶とさせていただきます。

第１部　基調講演

「ジェンダーから見る孤立・孤独：つながりのある社会に向けて」

講師　石田　光規 氏



私は社会学をベースに、主に孤独・孤立、友人関係、つながりづくりの研究をしています。ジェンダー研究自体が私の本流ではないのですが、ジェンダーの話も入れながら、孤独・孤立やつながりづくりについてお話していきたいと思います。

１．孤独・孤立が前景化した社会

孤独と孤立という言葉

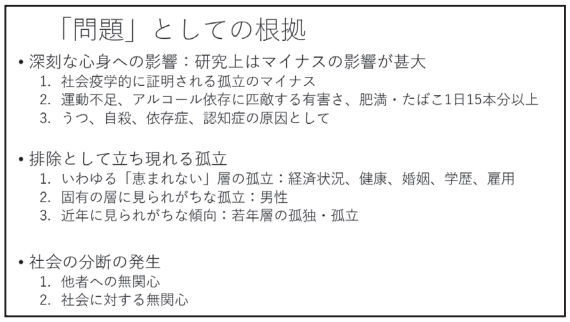
2000年頃から孤独・孤立が問題視されるようになりました。孤独は「寂しい」「理解されない」といった心理的な状態で、孤独感とも言われます。一方、孤立は「誰とも会わない」「相談相手がいない」といった客観的な状態です。孤立している人は孤独感が高い傾向にありますが、孤立していても孤独を感じない人もいますし、逆に人の中にいても本音が言えず孤独感が強い人もいます。

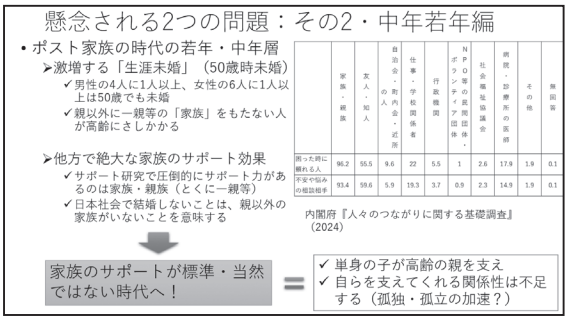
孤独・孤立はなぜ問題か

地域で孤独・孤立に取り組む際、「好きで一人でいるのだから放っておけばいい」という考え方もあります。しかし、孤独・孤立が心身に深刻な影響を与えることは明らかです。社会疫学では、孤立は運動不足やアルコール依存に匹敵し、喫煙よりも身体への害が大きいとされています。鬱、自殺、認知症などのリスクにもつながります。ただ、「ほっといてくれ」という人に無理に介入することは難しく、ここが対策の難しさだと感じています。

男性/社会的に恵まれていない人が陥りやすい

孤独・孤立に陥りやすいのは、経済的に厳しい人、健康状態が悪い人、非正規雇用の人、一人暮らしの人など、社会的に恵まれていない層です。そして男性は圧倒的に孤立しやすい。これは世界的にも同じ傾向で、最近は若年層にも広がっています。それを自分で選んだ結果ということで片付けてしまうと、自己責任のもとそういう方々を切り捨てることになってしまいます。社会の分断が起き、一人でいいと思う方が増えていくと、社会という単位で動くことがなかなかできなくなります。社会に対する無関心が拡大してしまうので、問題があると思います。

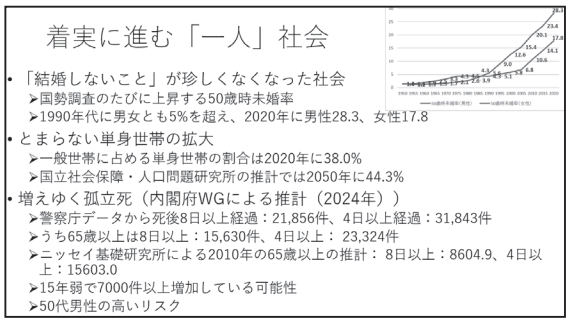


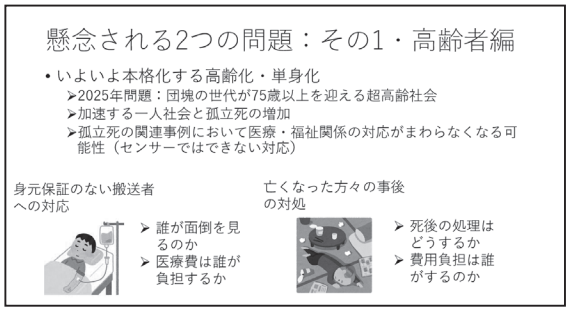


着実に進む「一人」社会

日本はかつて集団社会でしたが、今は一人がベースの社会になりました。50歳時未婚率は急上昇し、2020年には男性28.3％、女性17.8％。単身世帯率も38％に達し、2050年には44.3％と言われています。孤立死も増加し、特に高齢男性で割合が高くなっています。

2024年の警視庁データを見ますと、死後８日以上経過して発見された件数が21,856件、４日以上経過は31,843件。65歳以上の孤立死は、８日以上が15,630件、４日以上は23,324件。高齢の方々が非常に多いということがわかります。





医療、福祉が回らなくなる

単身高齢者が増えると、医療・福祉の現場が対応しきれなくなります。身元保証のない高齢者が搬送されても、治療後に誰が面倒を見るのか、医療費はどうするのかといった問題が残ります。亡くなった後の手続きも含め、現場の負担は大きく、今後さらに厳しくなると考えられます。

実際にお医者さんに伺うと「無料でやってしまいます」と言いますが、その体制が果たしていつまで持つのでしょうか。

運良く回復しても、すべての方々を福祉職員が面倒を見るのはかなり難しいです。

また、亡くなった場合、携帯電話の解約、銀行の口座をどうするかなど、死後の処理の問題もあります。現実として医療機関や福祉関係の方々の対応が回らなくなっていくということです。

孤独・孤立する人は増えていく

未婚化が進む中、親以外に一親等の家族を持たない人が高齢期に入ります。日本では困ったときに頼る相手の９割以上が家族であり、家族の不在は大きなリスクです。団塊ジュニア世代が高齢期に入るこれから、孤独・孤立はさらに加速する可能性があります。

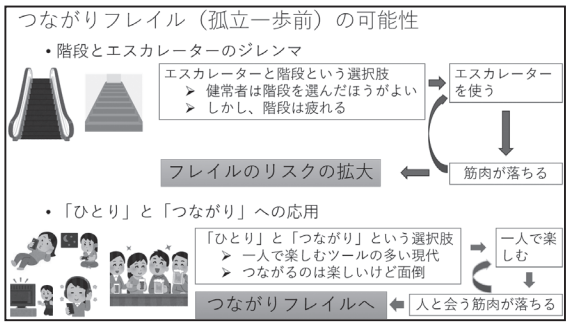
結局、日本社会で結婚しないということは、一親等の家族が親以外にいないということを意味しています。これまで家族のサポートが標準で当然だったのですが、家族のサポートのない人が多くなってきました。

「つながりフレイル」とは

私は、孤立の一歩手前の状態を「つながりフレイル」と呼んでいます。階段よりエスカレーターの方が楽で、エスカレーターを使い続けると筋力が落ちていくように、人と会わない生活が続くと“人と関わる筋肉”が落ちてしまう。スマホやテレビがあれば一人で楽しく過ごせる時代なので、つながりに入るハードルがどんどん上がってしまうのです。

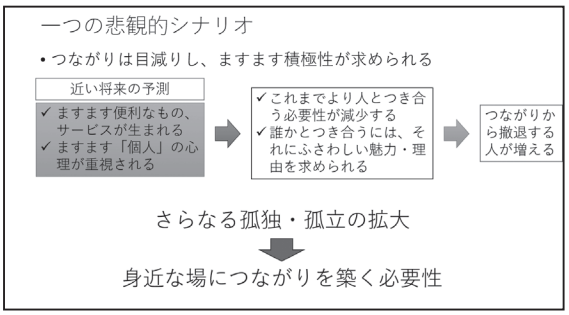
つながりというのは楽しいけれども、厄介なことが起きるかもしれないという面倒な面もある。それなら、一人で好きなことをしている方がいいという考えになってしまう。

日頃つながりの中にいれば慣れていきますが、エスカレーターのように楽な方を選び続けると、人と会うための筋肉が落ちてしまうのです。



今後、つながりから外れる人が増えてしまう

積極的に動ける人はつながりを持てますが、そうでない人は一人で過ごすようになりがちです。便利なサービスが増えると、人と付き合う必要性はますます薄れます。AIに相談すればいいとなると、人に頼る機会は減ってしまう。誰かと付き合うには、ふさわしい魅力や理由、あるいは動機、力みたいなものが求められます。つまり、階段を上るような力がなければ人付き合いができないような社会になっていきます。そうすると、つながりから撤退する人が増えてしまう。だからこそ、身近な場で自然につながれる仕組みがとても大事になっていくと感じています。

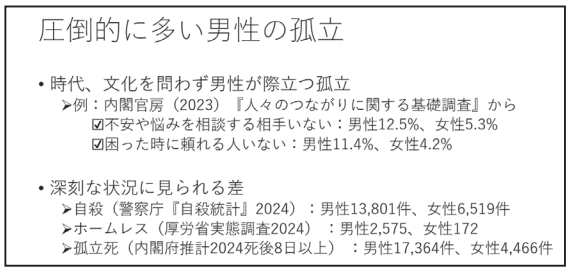


2．孤独・孤立とジェンダー

圧倒的に多い男性の孤立

ジェンダーと孤独・孤立の関係を見ていきます。先ほども触れましたが、男性の孤立は圧倒的に多いです。相談相手がいない男性は12.5%、女性は5.3%。困った時に頼れる人がいない男性は11.4%で、女性の倍以上です。自殺者数、ホームレス、孤立死の件数を見ても男性が突出しています。特に50代、60代男性の孤立死は非常に高い割合です。背景には、弱みを見せたくない、男性は強くあるべきだというジェンダー規範があります。中年期の男性は「支える側」と見なされ、セーフ

ティーネットが薄い。就労以外の保護手段が乏しいことも大きな問題です。さらに未婚化が進み、配偶者のサポートがない男性は39.1%が「頼れる人ゼロ」になります。女性は複線的なつながりを持ちやすいのですが、男性は配偶者に一本化されている人が多いのです。ただ、最近は女性にも気になる傾向があります。単身女性で「誰にも頼らない」という人が増えており、ホームレス女性も微増しています。単身女性の収入は厳しく、シングルマザーでは貧困率が一気に上がります。結婚という枠組みから外れると、女性もとても厳しい状況になるということです。



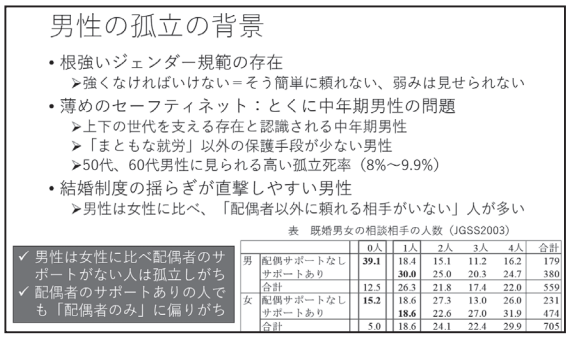
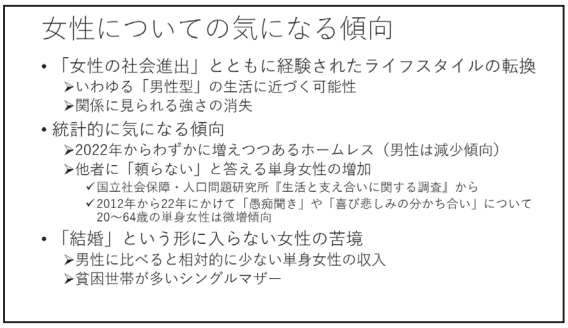


表　既婚男女の相談相手の人数（JGSS2003）

		0人	1人	2人	3人	4人	合計
男	配偶サポートなし	**39.1**	18.4	15.1	11.2	16.2	179
	サポートあり		**30.0**	25.0	20.3	24.7	380
	合計	12.5	26.3	21.8	17.4	22.0	559
女	配偶サポートなし	**15.2**	18.6	27.3	13.0	26.0	231
	サポートあり		**18.6**	22.6	27.0	31.9	474
	合計	5.0	18.6	24.1	22.4	29.9	705

環境変化への対応

人生の中での変化は、プラスでもマイナスでも孤独感を高めます。男性の場合、管理職に昇進したことで逆に孤独感が強まることがあります。新しい人間関係を再構築できず、自己肯定感が下がってしまうのです。そこに「弱みを見せない」という規範が重なると、



ますます孤独になります。母親の育児や介護も孤独・孤立が起きやすい場面です。子どもが生まれると人間関係を再編しなければならないのですが、うまくいかないことが多い。母親がやるべきだという規範が強く、つらさを言えずに抱え込んでしまう。産後の聞き取り調査でも、「混乱して記憶がない」「外に出られなくなった」「悩みを言える場がない」といった声が多く聞かれました。支援センターに行っても既存のつながりに入りづらい、申し込みの手続きが負担、深い悩みを話せないなど、孤独を深める要因が重なります。行政サービスが充実していても、「自分は使うほどではない」と利用しない人が多く、サービスと利用者の間にズレがあると感じています。

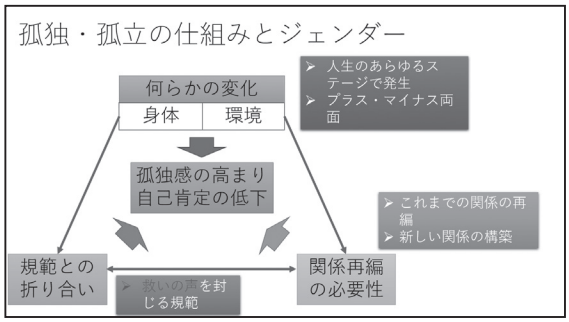
母親の育児と孤独・孤立

NPO法人こまちぷらすが、2019年に母親の産前産後の環境の変化についてａさん、ｂさん、ｃさんに聞き取り調査をしました。内容を少し紹介します。

＜aさん＞

・人生で一番のカルチャーショック。

・一言で言うと、混乱というか、もうほとん



ど記憶がない状況でした。

・マイナスの情報が世の中的にシャットアウトされているのか、リアルな情報が全然なくて、子育てイコール幸せみたいなキラキラした情報しかないので、私が取りたい情報は全然なかった。

＜bさん＞

・子供が生まれたことによって、なんとなくホルモンのバランスが狂ってしまった。

・子供が生まれてすぐパートナーが交通事故に遭ってしまい、二重の苦労を経験した。産後のイライラが一気に冷めた。

・自分だけが頑張らなきゃいけなかったということで、天国から一気に地獄に落ちたような感じでした。

・赤ちゃんを連れて外に出て、夏に散歩をしていると、「小さい子を外に出すなんて」という人がいて、全然外に出ることができなくなってしまって、ますます家にこもって孤独になった。

＜cさん＞

・生活も変わったし、体調も優れない中で、生きているのもやっとという感じでした。

・神経も尖って、全然眠れない。

・悩みや負のメッセージを発信する機会はなかった。子供は私が世話を焼いて当たり前だと思っているし、主人もそうだし、町の人もみんな子供の世話は母親がやって当たり前だと思っている。

このように、辛い気持ちを外に伝えることができず、どんどん内に溜めてしまう。その結果、孤独感を募らせてしまうということは子育てでは非常に多いです。

さらに、新しい関係を作れるかどうかも、難しい状況です。

＜aさん＞

・今までは仕事しかしていなくて、地域の活動に参加するなんていうのは０だったから何にもできなかった。

・意を決して子育て支援センターに行ったが、もっと前から来ているママ友つながりみたいなのがあって、なかなか入ることができなかった。

＜bさん＞

・０歳児のお母さんに会う機会が全然ない形になった。

・今までの会社のつながりでは、そういう風なことを全然言えないし、喫茶店でそういう風なことも言うことはできなかった。

＜cさん＞

・区役所のイベントに、役所に電話して、イベントに申し込むという手続きも大変でできなかった。

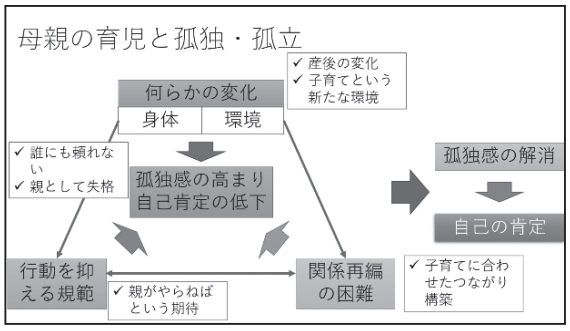
・ママ友に深い悩みを打ち明けられないし、場が暗くなっちゃうから、なるべく明るい話題を選んでいた。

・振り返ってみると、誰と話したわけでもな

く、友人と楽しい話をした記憶もあまりなくて、孤独だった。

子供が生まれるという一見幸せな状況に見える中で、実は人間関係の再編が求められます。また、子育てに対する社会の規範があり、辛いことが言えなくなり、自己否定に陥り孤独・孤立になってしまうことがあります。

大事なことは、そういう方が、誰にも相談していないということです。自治体では、子育て支援のサービスはたくさんありますが、行政サービスについて聞くと、「私は別にそういうのを使うほどではない」という感じで、使わない人が多い。実際に用意されているサービスと使う側とのズレがあるのかなという感じがします。



3．人びとをつなげる仕組み

つなげるための３ポイント

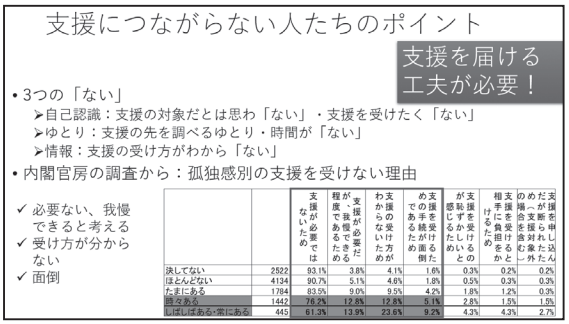
人々が支援につながらない背景には、

「自己認識がない」

「ゆとりがない」

「情報がない」

という“３つのない”があります。支援の受け方がわからない、面倒だと感じる人も多く、つまり上手に支援を届けるには工夫が必要なのです。



緩やかなつながりを

私たちは、強いつながりの方が良いと考えがちですが、実はけっこう強いつながりが苦手な人もいます。友達には明るい自分を見せなければならない、マイナスの自分は見せられないと考えてしまう。マイナスなことがあった時には強いつながりから離脱して、元気になったら戻るという人も多い。だからこそ、何かがあった時に「オン」になるような、緩いつながりがいいと思います。

四六時中連絡をするのではなく、「そういえばあの人いた」と思い出してもらえるような関係です。

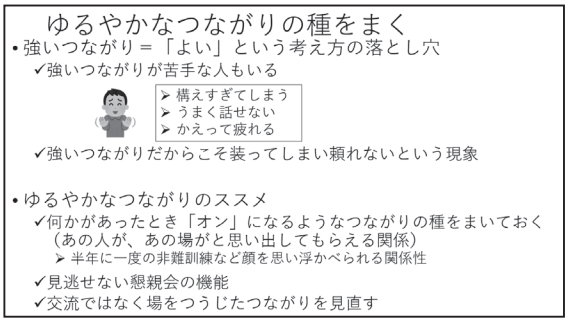
例えば、半年に１度避難訓練をすると、「そういえば近所にあの人いた」と思い出すことができます。このような、日頃は仲良くやっているわけではないつながりも重要だと思います。

また、懇親会の機能も重要だと考えています。コロナ禍を通じて懇親会をやらなくなったところはけっこうあります。

懇親会について、時間もお金もかかるし面倒という人は、懇親会は別になくてもいいと考えています。あるいは、人付き合いが嫌い

という人にとって、懇親会を断るのはけっこう体力がいることだと思います。

一方で、声をかけられたら行くけど、自分から声をかけない人もいます。特に日本人には多いです。実はそういう人には、懇親会はけっこう重要だと思います。なくなってしまうと、誘い待ち型の人も、人を誘ったりどこかに顔を出したりということをやらなければならないわけです。すると、「わざわざやるのも大変だし、もうつながりはいいか」となり、先ほどお話したような「つながりフレイル」になることもあります。実は、定期的な懇親会は意外と重要なのです。

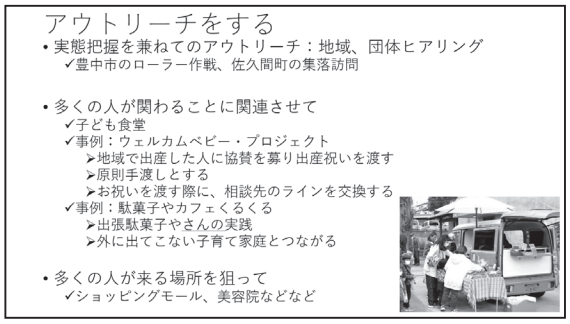


居場所による包摂

居場所は押し付けるものではなく、利用する人が「ここにいていい」と感じられることが大切です。交流が苦手な人も来られるよう、何をしてもいい、話さなくてもいいといった段階的な参加ができる場が望ましいと思います。私自身、環境保全のボランティアで２週間に１度、雑草を切ったりしていますが、それぐらいの方が私にとっては都合がいいです。やることがあって、会話はついてくるぐらいの感じです。交流と言われると疲れてしまうこともあるので、場があるから行くみたいな緩いつながりも重要だと思います。ポイントは２つあります。まずは物理的アクセス。行きやすい場所で中が見えて入りやすいこと。もう１つは心理的アクセス。「ここにいてもいい」「私だけではない」「ここに行くと役割がある」と感じられることです。

「思い」のある人を支える仕組み

居場所を運営する人を支える仕組みも欠かせません。行政が物件情報や助成金、告知などをサポートし、定期的に様子を聞きに行くだけでも活動が続きやすくなります。地域の特性もあります。稲城市のように開発された地域と、昔ながらの人が住んでいる地域では状況が違います。私が調査した多摩市の住宅団地では、特定のボスが登場すると「なぜあの人がボスなんだ」と言う人が必ずいます。そういう場所では、逐一いろんな人に話をして参加を促しながら進めていくことが大切です。アウトリーチも重要で、豊中市のように全戸訪問を行うと、地域とのつながりが生まれます。子ども食堂や移動販売車、ショッピングモールなど、多くの人が関わる場と結びつけることで、自然なつながりが広がっていきます。ウェルカムベビープロジェクトは、地域で出産した人に企業から協賛を募ってお祝いを渡す活動です。手渡したときに相談先とLINE交換をすれば、子どもが生まれた家庭とも効果的につながることができます。キッチンカーで出張し、外に出てこない家庭とつながることもあります。高齢の方々なら健康相談で回ってつながる。多摩市では移動販売車が多く、そうしたものが人をつなぐきっかけになります。



なぜ、つながりは必要なのか

最後に、つながりの実情をきちんと理解した方がいいということをお話します。私たちの社会は一人がベースで、誰とつながるのか、それとも一人のままでいいのかを選ぶような時代になりつつあります。今後、孤独・孤立の問題は本格化を迎えようとしています。だからこそ、つながりの特性をしっかり頭に入れておくことが大事です。

なぜ孤独・孤立が問題なのかというと、つながりというのが私たちの幸せのキーアイテムだからです。必要になった時につながりを作ろうとしても手遅れなのです。体調を崩しました、不都合がありましたという時に人に頼りたいと思っても、急につながりができるわけではないのです。

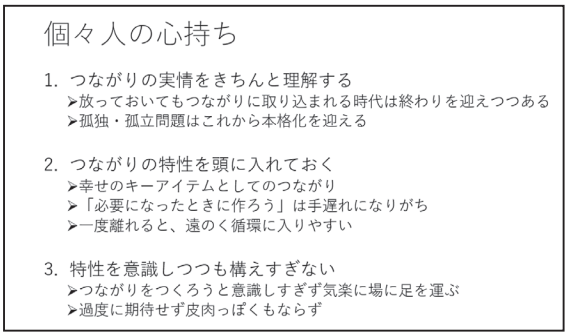
大変なことが起きた時ほど、他の人に迷惑をかけられないからつながりから退こうとするのが私たちの考え方なので、そうならないためにも、必要になった時ではなくて、そうなる前から顔を出しておくことが大事です。「つながりフレイル」の話にもあったように、一度離れると面倒になってしまいます。

誰かの中にいるというのは楽しい一方、つながりを保つというのはけっこう大変だったりします。一度離れてしまうと、どんどん遠のく循環に入ってしまいます。

あとは、特性を意識しつつも構えすぎないことです。頑張ってつながりを作らなければと思うかもしれないですが、意識しすぎてしまうとくたびれてしまいます。まずは、何らかの場所で気軽に遊び、気軽に足を運ぶだけでいいと思います。

最後に、過度に期待せず、皮肉っぽくもならずということです。「つながりはあってもなくてもどっちでもいいよ」みたいに皮肉っぽくならずに、気楽にそういう場所に行くような生活をしていくことができればいいと思います。

本日の報告はこれで終了いたします。ご清聴ありがとうございました。



第２部　ワークショップ

第２部のワークショップは、参加者と意見交換をしながら、行動を起こす為の考えを整理する場になります。

“らしさ”に囚われない生き方をしながら「孤立・孤独」とどう向き合うのかを話し合いました。

今回は、①基調講演を受けて感じた感想、②自分が取り組みたいことや抜け出す方法、③互いの話から“生きやすさ”につながる関わり方や、お互いさまの甘え方について意見を出し合いました。

Aグループ

①　人と関わる煩わしさ、しんどさを感じることよりも、１人でやり切る事の方を選んでいる声が多く出されました

・無理がしんどい　・助けを求めるのに勇気が必要　・うまく交流が出来るか不安

・本音が言える場所がない　・迷惑を掛ける　・プレッシャーを感じる

②　１人でやり切れない時の不安や悲しみについての声も上がりました

・健康で働ける間は良いが、病気等で社会と接点がなくなった時に孤独になるのでは

・相手によって接し方を変える人と関わると、人として尊重されていないことで孤立、孤独を感じる

③　お互い様などで、どのように甘えたいですかという質問に対しては、なかなか自身がやってもらいたい事については意見が出てきませんでした

・話を聞いてあげたい　・誘ってくれたら地域の活動に参加をしたい

Bグループ

①　講演会感想

・女性の貧困も深刻だが、男性の孤立孤独を講演で知り改めて問題意識が深まった

②　孤立や孤独について取り組もうと思うこと

・知り合いや散歩などでお会いする方には、必ず目をみて挨拶するようにしている

③　他者からしてほしいこと、自分から他者にしたいこと

・公民館など歩いて行けるところがあり、そこで出会う方から声をかけられるとうれしい。つなぎあい・担いあう、気軽に出かけられる「居場所」は大切だと思う

・第二公民館でイベントを知り参加したが勉強になった。もっと若い人も関心を持ってほしい

・居場所は大事だが移動手段が問題だ。稲城のｉバスの大幅な減便とコース変更により、平尾から講演会など出かけられなくなることは残念

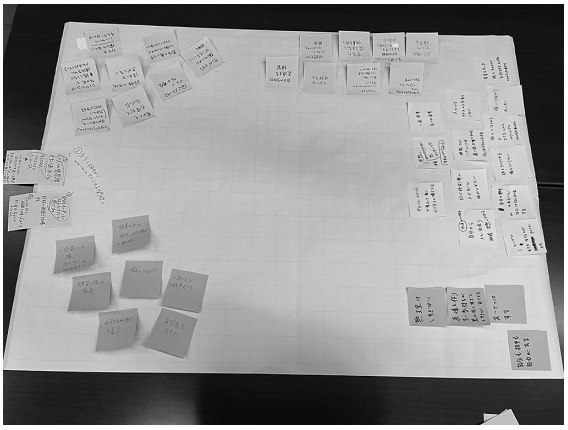
Cグループ

（①、②、③合わせて）

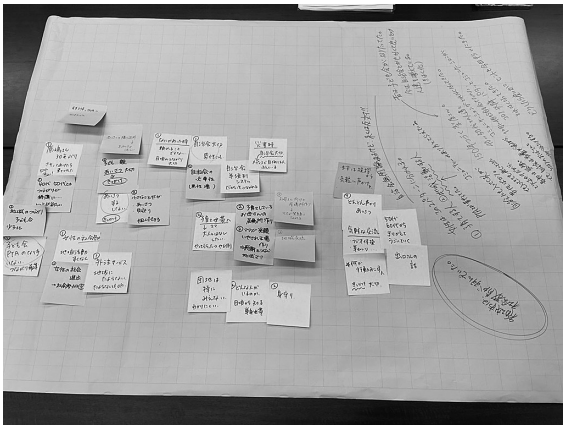
・地域で自治会活動を長年続けてきた女性は、普段の声掛けの大切さ、困りごと・助け合い等の活動を通して、顔の見える関係を築いてきた。まずは、自治会活動に参加してほしい
・地域での活動を長年行ってきた男性は、会う人や通る人には、まず、挨拶からの声掛けで顔見知りの関係が生まれてきた。それは、大人だけではなく子ども達にも挨拶することにより「見守り」の役目にもなっている
・挨拶は、相手の心を開き、存在を認め良好な関係を築くきっかけとなる
・しかし今は、特に若者の挨拶離れが進んで来ているのではないか？その背景には、社会全体がSNS等でコミュニケーションが変化している。また、個人主義・他人に干渉されたく無いとか、シャイな性格等があるのでは？
・でも、やはり基本・はじめの一歩は、まず『挨拶』から

人と関わることにかなりのストレスやエネルギーを必要と感じる方が多く、場はあるけど足が向かっていない事が分かりました。

“何でここまでしなくてはいけないの？”と思うかもしれませんが、改めて、場を作る側の仕掛けが重要だと感じました。

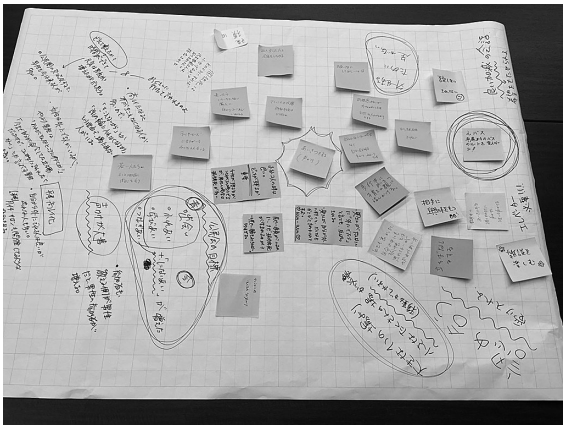


Aグループ



Bグループ

グループごとに気付いたこと考えたことのまとめ



Cグループ

【講師講評】

皆さん本当に白熱した話し合いで、私も全てのグループを回りましたが楽しく伺わせて頂きました。

様々な話が出ていましたが、まず「地域」について。家族が揺らいでしまうと、いよいよ多くの人を包摂してくれるものは地域くらいなのかなと思います。

人はどこかにはたぶん住むので、近隣の人が必ずいて、いかに地域の繋がりを再生させていくのかという事が鍵となっていきます。その時に重要なポイントとして、強制的に何かをやることがそこまで悪い事なのかどうか、そろそろ私たちは見直さなくてはならないと考えています。これまでは、“自由が重要で、強制は悪だ”と考えられてきたわけですが、例えば、繋がりを作るために地域の人と半月に一度集まって地元の掃除をしましょうというのは悪い強制なのかということです。それくらいであれば、最低限の顔を突き合わせる関係を作るためには必要なことであると考えるのか、それとも個人の考えを侵害する悪であると捉えるのか。今後、地域というものを考えていくときには、はたして強制ということが悪いことばかりなのか見直さなければならない時にきています。

次に、「担いあい」について。人はやってもらってばかりだと、何となく寂しいとか、自己否定みたいなものが出てきてしまうので、それを自己肯定に転じるためには、その人が何か得意なことや役割がそこにあることが大事だと思います。担いあいの発想はとても大事だと感じています。

最後に、世の中には「本音を話せる場がない」という人が大勢います。どういう人かというと、その場所が大事であるが故に話せなくなる人が多い。更によくよく話を聞いてみると、“本音を話して嫌われるくらいなら、本音を話さないままでいる方がましだ”と言う人が結構います。“本音を言って嫌われたらどうしよう”と不安になる事があるかと思いますが、今の社会、インターネットで検索すれば行く場所なんて幾らでもあって、その場所とずっと繋がらなければならないという事は、実はあまりなかったりします。

“本音を出しました→この場所は自分に合いませんでした→では次にいきましょう”という考えは、そんなにおかしい事ではありません。“ここで頑張って何とかしなきゃいけない” “ここにしか居場所がない”という自分の中の感覚は、もう少し緩くしてあげてもいいのではないかと思います。

今日の皆さんのこういった話し合いの場も、地域の繋がりを作っていくものだと思いますので、是非こういった話し合いを他の場所でもしていただければと思います。







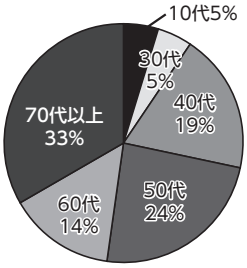
ワークショップの様子

＊＊＊　男女平等推進フォーラム稲城2025アンケート集計結果　＊＊＊

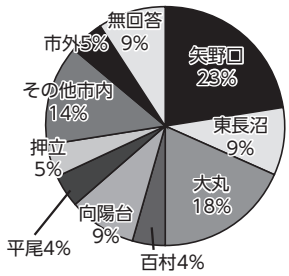
2025/12/６実施　回答数22

1　あなたについて教えてください。（今後の資料にしますので差支えない範囲でご記入ください。）

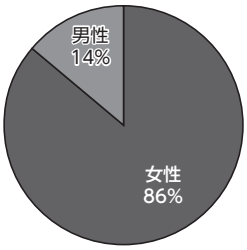
年齢



お住まい



性別



2　このフォーラムを何でお知りになりましたか？（複数回答可）

（1）広報いなぎ：２人　（2）チラシ・ポスター：10人　（3）市ホームページ：１人
（4）市メール配信サービス：０人　（5）X（旧ツイッター）やフェイスブックなど：０人
（6）市役所１階ロビーパネル展示：１人　（7）市内図書館特設コーナー：０人
（8）友人から：６人　（9）その他：５人

3　このフォーラムの参加についておたずねします。今回の参加は何回目ですか。

●初めて：８人　●２回目：０人　●３回目：２人　●４回目以上：８人　●無回答：４人

4　このフォーラムに参加された理由をお聞かせください。

・男性の孤立が多いという事で実態をしりたかった。
・チラシにかかれていた孤独・孤立は社会が生むという視点が目に留まり気になった。
・自分自身がトリプル介護で仕事やグループ活動などができず孤立しているから
・つながりのある社会に向けて、孤立孤独の方が近くにいるので
・先生のお話を聞きたかったため・・・・・等

5　基調講演はいかがでしたか？　その答えを選んだ理由も、よろしければご記入ください。

・周囲の人は「一人で背負い込まず、外部サービスに頼って」というし、制度や場があるのになぜ利用しないのか、というような論が多い中、利用できない気持にも寄り添ってくださって希望が持てました。
・講師の話が軽快で聞きやすかった。むりやりつながりの場へ出ていかせようとしない所も良かった。二部では多くの人が自分の気持ちを話し、周りの人がキチンと耳を傾けてコメントしていた所がよかった。これが１つのつながりの場だと感じることが出来た。
・ゆるやかなつながりの種ということが印象に残りました。ほどよい距離を保つことがなかなか難しいです。
・具体例が多く分かりやすかった。
・生きづらさの意味、腑に落ちるものがあり良かったです。・・・・・等

6　今後、男女共同参画と関連して、どのようなテーマの話が聞きたいですか？（複数回答可）

（1）労働：５人（2）子育て：１人（3）介護：９人（4）教育：２人（5）家族：２人（6）老後：６人
（7）暴力（虐待・DVなど）：３人（8）災害・防災：６人（9）政治：６人（10）その他：２人

7　このフォーラムへの要望などをお聞かせください。

・多様な家族のありかたについて学びたいです。
・貴重な時間をありがとうございました、石田先生のお話、とても分かりやすかったです。
・多すぎて迷う・・・・・等

8　＜孤独・孤立に関する質問＞
現在、何か身近な集まりに参加していますか？（自治会、消防団、習い事、読書会等々、Ｗｅｂでの集まりも含む）

●参加している：17人　●参加していない：３人　●無回答：２人

9　＜孤独・孤立に関する質問＞
孤独、孤立に陥ってしまった時または陥りそうな時に、貴方をそこから救い出してくれたものは何ですか？

・友人、趣味活動、ボランティア　・人とのお喋り、学習会（こういう講演会への参加）
・陥ってしまった経験は、正規で仕事しながら三人の子育て、夫も早朝出勤、深夜帰宅という状況の時、保育園や地域のママ友、保育園の先生の親身さが支えになった。・・・・・等

パネル展

孤立や孤独は誰にでも起こり得る身近な課題です。本展示では、その背景や影響を知るとともに、人と人とのつながりが持つ力に目を向けました。気づくこと、声をかけること、寄り添うことは、決して特別な行動ではありません。

一人ひとりの小さな関わりが、安心できる社会をつくる第一歩になります。本展示が、自分や周囲の人を大切にするきっかけとなり、温かなつながりが広がっていくことを願っています。



～市役所１階ロビーでのパネル展示～
期間：令和７年11月26日（水）～12月３日（水）

【つながりの場体験談①】

私がお話を伺った「おしゃべりサロン」は、知的障がい者青年が地域活動を通じて、自分らしさの発見と仲間づくりができる場です。職場、家庭以外にも自分らしく過ごせる第３の場所があることが充実した生活に繋がることを理解出来ました。

【つながりの場体験談②】

私が伺った「ハートハウスサロン」は保育園敷地内で開催されていて室内は明るく、参加者がお友達を誘ってきているためか穏やかで活気がありました。園児たちとの交流や多彩な催しもあり笑顔が絶えない大切な場所となっていることがよくわかりました。

【つながりの場体験談③】

「やのくち子ども食堂」は、2018年から孤食の子どもや異世代交流などを希望する親子を対象に、「ハーモニー松葉」で、月一日実施しています。コロナ禍の時はお弁当の配達のみで続け、今は、会食と両方続けています。

長く続けているので、一緒に食事される入居者の方や職員などとも顔馴染みになり、何とも暖かくホッと出来る場だと思いました。







～フォーラム当日のパネル再現～

第48回 男女平等推進フォーラム稲城 2025

生きづらいのは あなたのせい？

～ジェンダーが生む望まない孤立・孤独～

託児あり

参加費無料

孤立しやすいのは女性より男性であるという国内外のデータがあり、「男らしさ」等のジェンダーの関係が指摘されています。また女性では、ライフスタイルが変化する中で「男らしく働く」ことで、孤独を感じる人が増えているようです。他にも、「あるべき子育て」をしない女性も孤立しがちと言われています。
孤独や孤立は本人が自由に選択できるのではなく、社会が生むという視点を学び、一緒にできることを探してみませんか。

2025年
12月6日（土）
13時30分～16時45分
（開場13時00分）

稲城市地域振興プラザ
4階会議室（稲城市東長沼2112-1）



講師：石田（いしだ） 光規（みつのり）氏
早稲田大学文学学術院教授

第1部 基調講演
「ジェンダーから見る孤立・孤独：つながりのある社会に向けて」
講師 石田 光規
定員50名・申込先着順

第2部 ワークショップ
～第1部の内容を振り返りましょう～

申込み・問合せ

稲城市 産業文化スポーツ部 市民協働課 男女平等参画係
■電話：042－378－2111（内線 273）　■ファクス：042－378－5677
■メール：shiminkyoudou@city.inagi.lg.jp　■主催：稲城市
■企画運営：男女平等推進フォーラム稲城 2025（第48回）実行委員会

申込みフォーム コード

第1部は、要約筆記・手話通訳・点字プログラムがあります。
第2部の要約筆記・手話通訳を希望される方は、11月28日（金曜日）までにお申込みください。
※託児は1歳以上の未就学児が対象です。11月28日（金曜日）までにお申込みください。（定員5名）

男女平等推進フォーラム稲城は、「男女平等推進いなぎプラン」に基づいて実施する事業です。

『稲城市婦人のつどい』から『男女平等推進フォーラム稲城』へ

このフォーラムは、1975年（昭和50年）の国際婦人年を記念して、「子どもらに残すよい社会」をテーマに『稲城市婦男のフォーラムいなぎ』など変わりながら、様々な形式で様々なテーマを取り上げ、現在の『男女平等推進フォーラム稲
この間変わらないのは、市民の実行委員会により企画・運営されていることです。フォーラムのこれまでを稲城や国、

回数	日程	名称	テーマ（講師や出演者）
1	S51.3.18	国際婦人年記念稲城市婦人のつどい	「子どもらに残すよい社会」 （吉武輝子氏）
2	S53.3.31	稲城市婦人のつどい	「稲城の婦人活動のあゆみをさぐる」 （市川房枝氏）
3	S55.3.28	稲城の婦人のつどい	「稲城の婦人の地位向上とつながりを求めて」
4	S56.3.15	稲城の婦人のつどい	「あらゆる分野への男女共同参加の時代」 （山口みつ子氏他）
5	S57.4.25	82稲城の婦人のつどい	「ともに生きる婦人の連帯を」 （山口みつ子氏）
6	S58.5.8	83稲城の婦人のつどい	「ともに生きる婦人の連帯を」パートⅡ （折井美耶子氏他）
7	S59.4.22	84稲城の婦人のつどい	「ともに生きる婦人の連帯を」パートⅢ （山口みつ子氏他）
8	S60.4.14	85稲城の婦人のつどい	「ともに生きる婦人の連帯を」パートⅣ （吉武輝子氏他）
9	S61.6.1	86いなぎの女性フォーラム	「ともに生きる婦人の連帯を」パートⅤ （西村絢子氏他）
10	S62.5.10	87いなぎの女性フォーラム	「ともに生きる婦人の連帯を」女と男でつくる21世紀 （山口みつ子氏他）
11	H1.2.18	88稲城の婦人のつどい	「ともに生きる婦人の連帯を」 （丸木政臣氏他）
12	H2.1.28	89稲城の婦人のつどい	「ともに生きる婦人の連帯を」 （佐藤昌一郎氏他）
13	H3.1.26	90いなぎの女性のつどい	「21世紀・男女共生をめざそう」 （駒野陽子氏他）
14	H4.1.25	92いなぎの女性のつどい	「女と男でつくるいなぎ」 （藤田綾子氏他）
15	H5.1.31	93いなぎ女性フォーラム	「女と男　人間らしくあなたらしく」 （落合恵子氏）
16	H6.1.30	94いなぎ女性フォーラム	「女と男　人間らしくあなたらしくⅡ」 （小沢遼子氏）
17	H7.1.22	95いなぎ女性フォーラム	「女と男　人間らしくあなたらしくⅢ」 （木元教子氏）
18	H8.2.28	96いなぎ女性フォーラム	「女の生き方男の生き方　変わったこと変わらないこと」 （山口みつ子氏・半田たつ子氏・広岡守穂氏）
19	H9.2.24	97いなぎ女性フォーラム	「メディアの中の女性像・男性像」 （樋口恵子氏・岩崎貞明氏）
20	H10.3.1	98いなぎ女性フォーラム	「女と男・今“働く”ということ」 （中島通子氏）
21	H11.2.28	99いなぎ女性フォーラム	「聞いて、聞かせて、あなたの本音～家庭で・職場で・地域の中で～」 （江原由美子氏）
22	H12.3.5	女と男のフォーラムいなぎ2000	「転機を生かす・転機を創る～パートナーシップが変わるとき～」 （福沢恵子氏）
23	H13.2.25	女と男のフォーラムいなぎ2001	「私にだけまかせないで～仕事・子育て・老後～」 （井上孝代氏）

人のつどい』として開かれました。その後、名称は、『いなぎの女性のつどい』、『いなぎ女性フォーラム』『女と城』へと続いてきています。
国際的な動きと共に紹介します。

稲城の動き	日本の動き	国際的（国連などの）な動き
	（昭和21年　婦人参政権獲得）	（各国で婦人参政権の獲得）
		(1979年　昭和54年) 国連第34回総会「女子差別撤廃条約」採択
世界女性会議（コペンハーゲン）１名参加		世界女性会議（コペンハーゲン）
市民組織「稲城市婦人関係懇談会」設置	「男女雇用機会均等法」公布 「女子差別撤廃条約」批准	世界女性会議（ナイロビ） （バックラッシュ発生　アメリカ）
稲城市婦人行動計画策定に向けての提言 （女性センター設置を提言）		
「稲城市女性行動計画（第１次）」策定		
市民組織「稲城市女性行動計画推進協議会」設置	「育児休業法」公布	
		国連総会「女性に対する暴力の撤廃に関する宣言」採択
世界女性会議（北京）３名参加 市議会議員に女性５名選出		世界女性会議（北京）
「稲城市女性行動計画（第２次）」策定		
	「男女共同参画社会基本法」施行（バックラッシュ萌芽）	
		国連特別総会「女性2000年会議」（ニューヨーク）
「女性の悩み相談」開始	「DV防止法」公布	

回数	日　程	名　　称	テーマ（講師や出演者）
24	H14.2.24	女と男のフォーラムいなぎ2002	「私にだけまかせないでパートⅡ～性域なき構造改革！ 女も男も・仕事も・家庭も～」（大日向雅美氏）
25	H15.3.2	女と男のフォーラムいなぎ2003	「はじめの一歩は私から～家庭へ、そして社会へ～」 （汐見稔幸氏）
26	H16.3.7	女と男のフォーラムいなぎ2004	「女らしさ・男らしさ・自分らしさとは？～多様な生き方を認めよう～」 （瀬地山角氏）
27	H17.3.5	女と男のフォーラムいなぎ2005	「がまんしないで・させないで～気づいてますか？身の回りの暴力～」 （江原由美子氏）
28	H18.3.4	女と男のフォーラムいなぎ2006	「気にしてますか？勝つこと負けること～私らしさの見つけ方～」 （香山リカ氏）
29	H19.2.24	女と男のフォーラムいなぎ2007	「変える勇気　変わる勇気」 （辛淑玉氏）
30	H20.2.23	女と男のフォーラムいなぎ2008	「女と男、どっちがつらい？」 （諸橋泰樹氏・杉井静子氏）
31	H21.2.28	女と男のフォーラムいなぎ2009	「女と男、いま、『働く』ということ。～自己責任じゃ解決できない！ 聞いて、語って、何とかしなきゃ！」（竹信三恵子氏）
32	H22.2.28	女と男のフォーラムいなぎ2010	「助け合って乗りきろう！あなたの生きづらさは何ですか？ ～講談で聞く男女共同参画　A・B・C～」（宝井琴桜氏）
33	H23.2.27	女と男のフォーラムいなぎ2011	「“イクメン”はどこに向かうのか？～ブームで終わらせないために～」 （渥美由喜氏）
34	H24.2.26	女と男のフォーラムいなぎ2012	「女子力？男子力？人間力！～あなたの中に、あるちから～」 （中垣陽子氏・諸橋泰樹氏）
35	H25.2.23	女と男のフォーラムいなぎ2013	「私は私～みんなで考えよう、幸せのかたち～」 （山田昌弘氏）
36	H26.3.2	女と男のフォーラムいなぎ2014	「何のために働くの？誰のために働くの？」 （深澤真紀氏）
37	H27.3.1	女と男のフォーラムいなぎ2015	「気づいて築く　私の中にあるチカラ」 （斎藤美奈子氏）
38	H28.2.28	女と男のフォーラムいなぎ2016	「『らしさ』にとらわれていませんか　男性学の視点から日常の『あたり前』 を見つめ直す」（田中俊之氏）
39	H29.2.12	女と男のフォーラムいなぎ2017	「備えあれば憂いなし？！～女性の視点から考える災害対策～」 （竹信三恵子氏他）
40	H30.2.3	女と男のフォーラムいなぎ2018	「気にする？気になる？気にならない？～15秒の世界が伝えるジェンダー像～」 （千田有紀氏）
41	H31.2.16	女と男のフォーラムいなぎ2019	「みんな違ってみんなイイ！！女と男だけじゃないフォーラム」 （室伏きみ子氏）
42	R2.2.1	女と男のフォーラムいなぎ2020	「絵本今昔ものがたり ～「らしさ」の描かれ方～」 （東條知美氏）
43	R3.1.24	女と男のフォーラムいなぎ2021	シネマ＆トーク　「次は何に生まれましょうか　～見つめませんか？自分のこ と、周りのこと～」（野本梢氏・稲村久美子氏）
44	R4.1.29	女と男のフォーラムいなぎ2022	「“チーム育児”ってなーに？チームメンバーは経験・年齢・性別不問」 （遠藤利彦氏）
45	R5.2.12	女と男のフォーラムいなぎ2023	「パンデミックが浮き彫りにしたジェンダー格差 ～コロナ禍の未来を切り拓こう～」（飯島裕子氏）
46	R5.12.3	女と男のフォーラムいなぎ2023 （第46回）	「女性の声が反映される政治を目指して ～日本のジェンダーギャップ順位125位の衝撃～」（糠塚康江氏）
47	R6.12.1	男女平等推進フォーラム稲城 2024	「男女平等の視点に立った防災対策とは ～弱い立場の命と健康を守るために～」（天童睦子氏）
48	R7.12.6	男女平等推進フォーラム稲城 2025	「生きづらいのはあなたのせい？ ～ジェンダーが生む望まない孤立・孤独～」（石田光規氏）

稲城の動き	日本の動き	国際的（国連などの）な動き
	「DV防止法」改正（H16.12.2施行）	
稲城市男女平等推進センター開設		
第二次稲城市女性行動計画達成率94.3% 「稲城市男女共同参画計画（第３次）」策定		
	「DV防止法」改正（H20.1.11施行）	
	「女性差別撤廃条約」30周年及び 「男女共同参画社会基本法」10周年	
	「育児・介護休業法」一部改正	国際女性デー100周年（H22.3.8）
	「改正育児・介護休業法」施行 (H22.6.30)	
	「ＤＶ防止法」一部改正（H26.1.3施行）	
男女共同参画に関する実態調査の実施		
いなぎプラン（稲城市男女共同参画計画） （第四次）策定（H28.3月）	「女性活躍推進法」（H27.9.4施行）	
	「改正育児・介護休業法」施行 （H29.1.1）	
	「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」（H30.5.23施行）	
	「改正育児・介護休業法」公布 （R3.6.9）	
	「改正育児・介護休業法」施行 （R4.4.1、R4.10.1）	
	「女性支援新法」施行（R6.4.1.） （困難な問題を抱える女性への支援に関する法律）	

実行委員になって一言

★坪内委員
　慣習から生まれるジェンダーの課題をはじめ、現代社会には一人では乗り越えられない問題が数多く存在します。逆を言えば、誰かと繋がる事で見えてくる視点や、支え合えば乗り越えられる問題もあります。
　人と人との繋がりは、孤立を防ぎ、社会全体の安心や安全をもたらすことを、今回のフォーラムを企画/実施をして確信しました。多くの方が行動を起こす種になったら嬉しく思います。

★下曽小川委員
　今回『孤独・孤立』という重いテーマを扱うにあたり、最初はどこか遠い誰かの問題だと思っていました。しかし、会議を重ね、講師の方のお話を伺う中で、孤独は誰の身にも、そして自分自身にも起こりうる身近な問題だと痛感しました。性別や役割に縛られず、弱音を吐ける場所があることの大切さを、実行委員の活動を通じて私自身が一番学ばせていただいたと感じています。初めましての方々にお会いし、仲間に入って参加出来た事、良い経験となりました。

★村山委員
　９月中旬、ご講演の依頼内容など先生との打ち合わせのため、市役所の会議室に集まりオンラインにて先生とご対面しました。その際に「妻を亡くされた男性の場合、相談する相手がいない。」と話されたことが、わが身のありようとぴったりと重なり驚いたことを鮮明に覚えています。自分の孤独は客観視しなければ気付かないのです。孤独から抜け出すための人との繋がりについて、実行委員という立場からこの学びの場にいることができたことに心から感謝しています。

★小倉委員
　今回は地域での宣伝活動に重きを置きました。 商店会、個人教室などポスターが目にはいりやすい場所にお願いして回りました。子ども食堂の見学や食事会にも参加させていただき地域の多くの方々の温かい支援など肌で感じました。人口減少・少子高齢化が進む社会で何ができるか、石田先生のわかりやすいお話から自分ごととしてかんがえさせられました。

★棚原委員
　孤立・孤独問題は、性別や年齢問わず誰でも陥る可能性がある深刻な問題ですが、少しでも地域との繋がりを持ち続けることで望まない孤独に陥ることを防ぐことが出来ます。講演後にさっそく、私は自分の本音が出せる心地良い居場所を増やそうと行動し始めました。でも繋がり作りは、いつでも始めの一歩にかなり気合いがいります…。
　このフォーラムも誰かにとっての繋がりの場の１つであり続けられるように、今後も活動してまいります。

★柴田委員
　今回の「孤立・孤独」を考えるというテーマは、深刻過ぎて難しいかな？と思いましたが、誰もがそうなり得るのであって決して他人事では無い事なのだと思い直し、取り組みました。パネル展で、「相談窓口」や「地域のつながりの場」の具体的な紹介が出来て良かったと思います。私も、子ども食堂へ見学に行ってほっこりしたりと、貴重な体験もさせていただきました。ありがとうございました。

◆男女平等推進フォーラム稲城2025　実行委員会活動経過報告◆

月/日	項　　目	内　　容
広報いなぎ４月１日号で実行委員公募		
5/10(土)	第１回実行委員会	・自己紹介 ・フォーラムとは（目的や実行委員会の役割など） ・役員選出 ・会議の日程等、テーマ、講師の候補、意見・情報交換
6/7(土)	第２回実行委員会	・テーマ、講師、形式について意見交換
7/19(土)	第３回実行委員会	・講師について意見交換 ・内容、形式、ポスター等について意見交換 ・タイトル、サブタイトル検討
8/2(土)	第４回実行委員会	・講師、タイトル決定 ・タイムスケジュール、講師打ち合わせ、ワークショップについて意見交換
9/6(土)	第５回実行委員会	・ワークショップ、パネル展、ポスターチラシ、講師打ち合わせについて意見交換
10/4(土)	第６回実行委員会	・ポスター、チラシ決定 ・ワークショップ内容、配布物、パネル展について意見交換
11/1(土)	第７回実行委員会	・当日の流れ、台本の確認 ・配布物、アンケートの確認 ・パネル展内容の確認
12/6(土)	当　　日	・フォーラム実施
12/20(土)	第８回実行委員会	・反省会 ・記録集について
12/22(月) ～	記録集作成、活動報告会	

男女平等推進フォーラム稲城2025実行委員名簿



講師を囲んで記念撮影

実行委員

実行委員長	坪内　美幸
副実行委員長	村山　純
副実行委員長	下曽小川　美穂
会計	小倉　ゆき子
会計監査	柴田　麗子
書記	棚原　佳代

ご感想・ご意見がございましたら、
以下のフォームからお聞かせください。

協力

編集協力	いとう　啓子

男女平等推進フォーラム稲城2025記録集

令和８年３月発行
編集発行　男女平等推進フォーラム稲城2025実行委員会
稲城市産業文化スポーツ部市民協働課男女平等参画係
東京都稲城市東長沼２１１１
電話　０４２－３７８－２１１１